

令和 8 年 6 月 2 5 日

群馬大学学長選考・監察会議

## 国立大学法人群馬大学の望ましい学長像について

群馬大学長に求められる学長像は、以下のとおりとする。

1. 人格が高潔で学識が優れ、学内外からの信頼を得て大学における教育研究活動を適切かつ効果的に運営し、戦略的に大学経営基盤を強化できる者であること。
2. 「群馬大学の基本理念」の実現に向け、大学の現状を把握し課題を抽出したうえで、教育、研究、社会貢献等の諸活動について社会の現状と未来を見据えた明確なビジョンを示し、構成員の信頼と協働を得ながら、強いリーダーシップによって理念の着実な実現に導ける者であること。
3. 地域共創を先導し、知の拠点として地域と共生・発展を遂げ、あわせてグローバル化を推進することにより、世界の最先端を目指す存在感のある大学づくりに真摯に取り組む者であること。
4. 社会との信頼関係を築くため、優れたコミュニケーション能力によって国内外に広くネットワークを形成し、広く情報を発信できる者であること。
5. 群馬大学の持続的な発展や「群馬大学の基本理念」の実現のための中長期的な視点を有し、将来の大学経営を担う人材の育成・確保に努め、大学全体の組織力を高めることができる者であること。

### （参考）【群馬大学の基本理念】

群馬大学は、地域に根ざし、世界の最先端へとチャレンジし、21 世紀を切り拓く大学を構築するため、次の基本理念を宣言している。

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。